

私は10月28日～11月22日までの1か月間、三沢病院外科で実習をさせていただきました。私の出身は関東で、青森県にはほとんど馴染みがない土地でした。青森県の中でも東側である三八上北地域は大学のある弘前と離れていますので、どんな地域なのかも想像がつかないまま、不安とともに風が冷たい10月の終わりの三沢駅に到着しました。

しかし、実習が始まるとともにその不安は全くなくなりました。初日は2東の病棟に集合でした。病棟に行き自己紹介をする前より先に先生方から「君が吉野くんだね？これからよろしく！」と気さくに挨拶をいただきました。いままでもほかの病院で実習をさせていただきましたが、初日からこれほど声をかけていただいたのは初めてで嬉しく思いました。

1か月間の実習では主に手術見学をさせていただきました。手術場の看護師さん方もとてもやさしく、自分が器具を落としたり線に足をかけたりなど、たくさんのご迷惑をおかけしてしまったと思いますが、温かくフォローしていただきました。実習内容はとても充実していたと思います。三沢病院では1日平均2件程度、午前午後と手術に入り見学させていただきました。時にはカメラ持ちや鉤引きなどの手技を手伝わせていただきました。手術の雰囲気としては、時に冗談も交えながらも集中する場面もあり、とてもよい雰囲気であったと感じました。

私が実習をしているとき、研修医の佐々木先生もちょうど外科の研修をされていました。佐々木先生にはいつも気にかけていただき、よくお昼や飲み会などに誘っていただきました。空いた時間にわからないことを尋ねると、手術に関してはもちろん、授業ではわかり得なかった様々な臨床現場のことを教えていただきました。また数時間ではありますが三沢病院での救急当直も佐々木先生とご一緒させていただきました。日中の研修が終わってもなお、救急の患者さんに真摯に対応している姿は、2年後の自分には想像もつかないものでした。先生の研修姿を見ることができたのは自分にとって、なによりも大きなモチベーションにつながりました。



三沢病院では実習だけでなく三沢という地域を楽しむことができました。自分が実習を開始した最初の週に先生方からハロウィンパーティーのお誘いをいただきました。ありがたいことに衣装を貸していただくことができ、自分も参加させていただきました。自分の中でのハロウィンといえば、ちょっとした仮装をして皆で鍋をつつく程度のもので想像していました。しかし、実際には、先生のアメリカ人の友人宅で行われるホームパーティーであり、本場さながらの雰囲気はとても刺激的でした。また、歓迎会からお疲れ会まで色々と企画していただき、三沢ならではのお店を楽しむことができました。そこでは外科だけでなく内科や整形外科の先生方や病棟の看護師の方々とお話でき、病院内でも気まずさを感じることなく実習を送る中でも過ごしやすさを感じました。

最後となりますが、三沢病院外科の松本先生、池永先生、久保先生、そして研修医の佐々木先生をはじめ、三沢病院のスタッフの方々および今回の実習に関わってくださった全ての方に感謝申し上げます。日々のお忙しい中にも関わらず学生を受け入れていただき、三沢という地域の様子から外科で行われる日々の医療を私が知ることができたのは、自分にとってかけがえのない1か月間であったように思います。ありがとうございました。

実習期間:2019年10月28日～2019年11月22日